

2017年2月（第125回）例会のご案内

やいろ鳥の会 会長 坂本 勲

HP <http://khj-yairo.org/>

E-mail ja5cin@arion.ocn.ne.jp

○ 次回親講座・2月26日(日)

会場 高知市東部健康福祉センター

時間 13時30分から16時30分

講師 タンポポの大崎博澄先生

大崎先生のピアカウンセリング

家族サロンのような雰囲気でお互いの心に積もった諸々のことを話すことであなたの心から放してみませんか。

一番寒い時期でしょうか、北の山も雪化粧をしています。みなさん風邪などひかずに頑張っていますか。

1月22日の「長期高齢化したひきこもり支援の現状と課題」のシンポジウム(名古屋で開催)が終了し、その模様が全国の各メディアに大きく取り上げられています。1月23日の高知新聞にひきこもりの高齢化対策の記事(チラシ同封)がでていました。全国的にひきこもりの高齢化が進む中で高齢化対策は喫緊の課題になっています。

<TV・新聞の報道内容の一部のご紹介> <http://www.khj-h.com/20170122.html>

家族が孤立したまま高齢化していった事例検討をするたびになぜもっと早い段階で支援機関が介入していく事ができなかったのかという思いが募ります。全国各地のKHJ支部や地域ひきこもり支援センターに繋がることの大切さを痛感しています。

前回の親講座

1月の親講座はひきこもりを経験した若者を大学の先生に見立てて講義をしてもらう、ひきこもり大学でした。楠永君、川澤君、森君が講師をしてくださいました。

一番手は楠永洋介君で、自分と他の人との間の取り方を知ることについて。親子の心理的距離の取り方や社会に向き合う時の距離の取り方が大切。母親との距離感の場合は、母の間合いに取り込まれた状態から離れるために自分は寄り添う距離を測っていた。距離をうまく取れたらもっと自由な関係になれる。ひきこもっていた自分は社会との距離の取り方が分かったから出て働けるようになった。親子の葛藤は快適な距離を取れたら大体解決する。他人を傷つけることが怖くてひきこもっているという人は自分の持っている何かを適切に制御できないという思いから、それが他人を傷つけるかもしれないと恐れて出ていけない場合もあるのではないかと。

二番手の川澤君はマズローの5段階仮説を引用して、自分の中には承認の要求という壁が立ちはだかり、自分を積極的に社会へ押し出すことを躊躇させている。多くのひきこもる人たちが同じ承認要求の壁を持っているのではないかと思う。かつての自分は自分のいきづらさについてしゃべることができる場に巡り合えなかったことでよけいに生きづらくなった。やいろ鳥の会で自分の生きづらさを話せるようになったことはうれしい。宗教は一旦影響を受けるとやめてからもその影響やマインドコントロールは残っ

ているように思う。

三番手の森君は不登校から対人恐怖が出て引きこもるようになり、その後黒潮町の若者自立塾に参加したことや青年期の集いとといるに参加したこと、やがてといるのスタッフとして2年頑張ったこと。今は少し休みを取って自分のやりたいことと向き合っている。やはり、人と会うことは大事なことだと思った。ということをお話してくれました。



一回目のひきこもり大学で言い残したことを整理して発表してくれたり、自分の意見を一時間も展開して親からの質疑応答に答えたり、ひきこもり大学の講師に初挑戦したりとそれぞれの思いを語ってくれました。一日だけとれば大した変化はなくても一年二年という単位で見れば若者は長足の進歩をしているように思います。変化がないように見えても、我が子を信じて任せて待つということに徹してみませんか。

前回の親講座のアンケートから

◆個々の当事者のつまづきやきっかけや心理がわかった。しかし、我が子のことがよくわからない。わかるためのきっかけがつかめるといいのだが。◆まじめさが強い。すごい成長だと思います。人それぞれの生きづらさがある。◆子供さんが働き始めた保護者の方にも話を聴く機会があればと思います。◆親と子の間合いの取り方の話は参考になった。自分の空虚さやしんどさを埋めていけば親も子も楽になれるんだろう。楽になればゆとりも生まれる。今は社会全体にゆとりがない。心優しい若者は生きづらい世の中だと思う。若者のひきこもり大学と同様にひきこもりの親の大学があってもいい。◆元当事者の生の声を聞いて良かった。あせらず子供と向き合っていきたい。

あなたの一年の計はなんですか?について

◆平凡に生活ができること。◆できるだけ子供に声掛けする。◆腹をたてない。◆子どもがひきこもって今までに自分は何を学びどう変わったのかを文章にしてみたい。

親講座でどのようなことを学びたいですか

親講座にどんな人を呼びたいですか、またどんなことを学びたいですか。坂本までご意見-寄せてください。手紙でもメールでも直接言ってもらってもいいです。

Mail ja5cin@arion.ocn.ne.jp ファックス 088-862-0740 携帯 090-3184-8109

住所 〒781-8130 高知市一宮しなね一丁目 14-10-1

電話相談

随時電話相談をお受けしています。携帯 090-3184-8109(坂本)まで。

2月26日は たんぽぽの大崎博澄先生のピア・カウンセリング

一人では担いきれない肩の荷を下ろしに来てみませんか

- 1) 日時 2月26日(日) 13:30~16:30 無料です
- 2) ★13:00~13:30 受付 年会費徴収等
★13:30~13:40 やいろ鳥の会事務連絡他
★13:40~16:30 講義、休息、質疑応答 グループ別話し合い
- 3) 会場 高知市東部健康福祉センター2階研修室
高知市葛島4-3-3 ☎088-882-9380

やいろ鳥の活動カレンダー

- ◆ 2月16日 といろの白い門扉のさび落としと再塗装を予定しています。手伝ってくれる人はペンキがついてもかまわない服装で。午前10時ごろから始めます。
- ◆ 2月26日 親講座 東部健康福祉センター二階研修室 たんぽぽの大崎先生。
- ◆ 3月親講座は25日の土曜日の午前中です。AM9:30~12:00 講師は濱川先生。会場は高知市旭町のソーレです。お間違いないようにお願いします。12時終了後ご希望の方を募って近くのレストランへランチ会に行く予定です。

地域ひきこもり支援センターでの相談などについて

県立精神保健福祉センター(高知市丸ノ内2-4-1 保健衛生総合庁舎2階 高知城の北・県警の南側の建物の2F)で引きこもりに関する相談を受け付けてもらえます。駐車は入り口の守衛所で「精神保健福祉センターに行きたい」と言えば入れてくれます。**ひきこもり相談**はどなたでも月曜~金曜に県立精神保健福祉センター☎088-821-4966 又は ひきこもり地域支援センター ☎088-821-4508 で受け付けてもらえます。(電話相談可・無料) ほどなく庁舎が移転しますが電話番号は変わりません。お気軽に相談や個人面談を申し込んでください。面談の場合は先ず電話で予約をとってから訪問するようにしてください。

年会費の払い込み

年度が替わりましたので平成28年度の会費を集めます。平成28年8月から平成29年7月までの年会費です。(家族サロンと親講座の会場でも納入できます。)

振込先は 四国銀行 山田支店 (普) 0602101

全国ひきこもり KHJ 親の会高知県支部やいろ鳥 代表 竹中あおい